

# 都市再生整備計画(第4回変更)

タガワイ タエキシュウヘンチク ダイニキ  
田川伊田駅周辺地区(第二期)

フクオカケン タガワシ  
福岡県 田川市

令和5年9月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

目標及び計画期間

都道府県名	福岡県	市町村名	田川市	地区名	田川伊田駅周辺地区(第二期)	面積	52.9 ha
計画期間	令和 2 年度 ~ 令和 6 年度	交付期間	令和 2 年度 ~ 令和 6 年度				

<p><b>目標</b></p> <p>大目標：田川伊田駅を中心とした賑わいと回遊性のあるまちづくり</p> <p>① 市内外の多様な交流が育む魅力ある観光・交流・情報発信地の確立</p> <p>② 地域の魅力が有機的に連携し、安心して暮らせる都市拠点の創出</p>
<p><b>目標設定の根拠</b></p> <p>都市全体の再編方針（都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針） ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。</p> <p>本市は伊田町と後藤寺町の合併により誕生したという歴史的背景があり、これまででは、それぞれの市街地が個別に発展してきた。現在、両市街地には、鉄道駅を中心に医療や商業、金融等の都市機能が一定程度集積しているが、このまま人口減少が続くと、それぞれ単独で都市機能の集積を維持することは難しく、機能低下が進むことが予想される。</p> <p>このことから、今後は両市街地間の相互連携を行い、それぞれの不足する都市機能を補完することで、一体的な市街地形成を図る。また、田川伊田、田川後藤寺の両駅を中心として、公共交通の利便性を向上させることにより市内のどの地区からでも市街地へアクセスできる、持続可能で住みやすい都市の形成を目指す。</p> <p>具体的には、田川伊田駅、田川後藤寺駅周辺を中心拠点に位置づけ、この拠点間のバス路線を、両中心拠点を強固に結びつけ一体的な市街地の形成を支える最重要バス路線とする。ここに都市機能を集積しコンパクトなまちづくりをめざす。一方、中心拠点から離れた各小学校区はコミュニティが既に確立されていることから、それぞれを生活拠点と位置づけ、中心拠点と生活拠点を生活ネットワーク(公共交通)で結ぶことで、コミュニティの維持と中心拠点への移動の利便性を確保する。</p>
<p><b>まちづくりの経緯及び現況</b></p> <p>○市の概況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>田川市は、かつて産炭地として活気を呈しており筑豊炭田の中心地として賑わいを呈していたが、エネルギー政策の転換により、今ではかつての面影は影を潜めている。また、中心市街地においては、郊外型の大型商業施設の影響もあり、都市機能の拡散及び交流、居住人口の減少がみられる。一方、世界記憶遺産に登録された山本作兵衛氏の炭坑記録画並びに記録文書を所蔵する石炭・歴史博物館や県の五大祭りの一つである川渡り神幸祭(福岡県無形民俗文化財指定第1号)の開催地など観光拠点としてポテンシャルは非常に高い地域である。</li> </ul> <p>○地区の概況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当地区は、JR九州の日田彦山線と平成筑豊鉄道の伊田線、田川線の3路線が乗り入れる田川伊田駅を中心とした地区である。</li> <li>平成23年に日本初の世界記憶遺産に登録された山本作兵衛関連資料(山本作兵衛コレクション)の効果により観光客の大幅な増加が見られるなど、地域の魅力を活かしたまちづくりを進めている。</li> <li>平成24年12月から平成25年2月にかけて、商店街事業者をはじめとした市民によるワークショップを開催し、市の中心としての田川伊田駅周辺のあり方・まちづくりについて議論を行い、都市再生整備計画(計画期間:平成26年度から令和元年度まで)を策定した。この第一期計画で、山本作兵衛コレクションを所蔵する石炭・歴史博物館及び地区の玄関となる田川伊田駅舎の改修、これら施設を回遊する道路など当地区の整備を行った。</li> <li>本市には、山本作兵衛コレクションだけでなく筑豊地区公立美術館3館のうち一つがあるほか、私立美術館も所在している。歴史的に芸術文化への素地があり、世界的イラストレータ黒田征太郎氏との深い結びつきとなって、同氏の協力による炭鉱アートが第一期計画で整備された道路などに描かれている。</li> </ul>
<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>田川伊田駅は、石炭・歴史博物館(ユネスコ世界記憶遺産登録「山本作兵衛コレクション」所蔵)及び川渡り神幸祭(福岡県指定無形民俗文化財第1号)の最寄り駅であり、市の玄関口として相応しい駅前空間の確保が必要である。</li> <li>田川伊田駅と接続する公共交通が点在しており、その集約による交通結節機能の向上が必要である。</li> <li>田川伊田駅前には川渡り神幸祭において2日間で延べ20万人の観光客で賑わうことから、多くの観光客に対応可能な駅前広場の整備が必要である。</li> <li>改修した田川伊田駅舎とともに駅前広場が良好な景観を形成することで市民の憩いの場となることが求められている。</li> </ul> <p>○第一期計画における課題を解消する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第一期計画において田川伊田駅西側駐車場内に設置した駐輪場の駐輪スペースが不足しており、利用者に支障をきたしていることから、新たに駐輪場を増設する必要がある。</li> <li>駅前広場(道路)について、送迎車及びタクシー用の乗降場を整備し、交通結節点機能の強化を図る必要がある。</li> <li>田川伊田駅舎利用者が、交通・観光・防災情報などを瞬時に見てわかる視認性の高い情報版などの設置を行い、適切な情報発信を行う必要がある。</li> </ul>
<p><b>将来ビジョン（中長期）</b></p> <p>●『田川市第5次総合計画』— ひとを育て自然と産業が共に息づくまち田川 ～活力あるものづくり産業都市を目指して～</p> <p>[都市づくりの基本目標:自然豊かで安全・快適に暮らせる美しいまちづくり]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地に都市機能の集積・高度化を促進し、コンパクトシティ化を目指すとともに災害に強く、長寿命化・バリアフリー化された都市づくりに取り組む</li> </ul> <p>[施策:活力ある都市基盤をつくる]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>田川地域の拠点として、地域資源を活かしたにぎわいのある市街地の形成を図ります。</li> <li>人と自然が共生し安心して暮らせる都市を目指し、適正な土地利用を推進します。</li> </ul> <p>●『田川市都市計画マスタープラン』— ゆとりと潤いのある にぎわい都市 たがわ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>田川伊田駅周辺は、にぎわいのある商業地を形成するとともに、まちなか居住の促進を図りつつ、高次都市機能が集積する都市拠点として様々な人々が訪れる交流の場を形成します。</li> <li>田川伊田駅周辺については、中核都市として周囲から人を呼び込み、誰もが利用できるように、駅へのアクセス性の向上を図りつつ、鉄道とバス路線の連携などによる交通結節機能の向上を図ります。</li> <li>まちの中心である駅及び駅周辺地域については、駅前広場や商店街の整備とあわせて、美しい街なみ景観の創出に向けた取り組みを行うことで、市の玄関口にふさわしい駅前空間の形成を図ります。</li> </ul> <p>●『田川市立地適正化計画』(令和元年度策定)</p> <p>[まちづくりの将来像]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>伊田と後藤寺が連携して一体的に市街地を形成しあらゆる市民が容易に市街地へアクセスできる住みやすいまち</li> </ul>

**都市構造再編集集中支援事業の計画 ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。**

**都市機能配置の考え方**  
 公共施設の統廃合や複合化を図り、新規立地を行う場合は、都市機能誘導区域内への適正配置に努める。なお、公共施設等の維持更新などについては、平成29年3月策定の「田川市公共施設等総合管理計画」に基づいて行う。  
 (誘導施設に該当する公共施設のうち地区年数が40年を超えるもの: 田川市庁舎、田川市立図書館、田川文化センター、田川青少年文化ホール)

**都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方**  
 ・施設の廃止や学校の統廃合等による未利用地や未利用施設など、市が保有する不動産について、新たな誘導施設の用地として積極的に活用する。  
 ・田川伊田、田川後藤寺両駅を中心に、様々な人々が訪れる交流の場を形成し、新たな賑わいの創出を図ることで、中心市街地における日常生活サービス機能の向上や医療・商業機能等の集積を促す。  
 ・誘導施設に位置づけられる公共施設の整備にあたっては、民間事業者のノウハウや資金を導入し、民間事業者の創意工夫を最大限活かすとともに、新たな賑わい創出により周辺地域へ波及効果をもたらすよう、PPP/PFI事業等の活用を検討する。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

**目標を定量化する指標**

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
駅周辺の回遊性	人/2日	田川伊田駅周辺を通過する歩行者数	市の玄関口としての駅前空間の形成、交通結節機能と田川伊田駅整備の相乗効果によって、観光地としての魅力と田川伊田駅周辺の利便性が増し歩行者の回遊性に寄与する。	歩行者数 (目標年推計) 3,509人/2日	H30	歩行者数 4,804人/2日 (1,295人/2日増加)	R6
駅前広場の利用	人/年	田川伊田駅におけるコミュニティバス乗降者数	駅での時間消費環境が整備され、駅前広場整備によりキスアンドライドや他交通との結節機能が高まることで駅利用の利便性が向上する。	乗降者数 (目標年推計) 5,177人/年	R1	駅乗降者数 7,452人/年 (2,275人/年増加)	R6
駅周辺全体に対する満足度の向上	点	まちづくりアンケート調査における、まちづくりに対する満足度の評価点	安全・安心でゆとりある空間を確保するとともに、拠点周辺の魅力向上・アクセシビリティ向上により相乗効果が生まれ、市民のまちに対する意識の醸成及び満足度の向上(満足度合平均点の増加)が図られる。	満足度合平均点 2.77/5点	R1	満足度合平均点 3/5点 (0.23ポイント増加)	R6

整備方針等

<p><b>計画区域の整備方針</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆市の玄関口として相応しい駅前空間を確保することで、市の中心拠点として、また魅力ある観光地としての良好な景観形成を図る。 (回遊性(歩行環境)、観光拠点、観光の見せ場、地域拠点(防災拠点))</li> <li>◆市の玄関口として交通結節点機能を整備する。 (回遊性(歩行環境)、観光拠点、地域拠点(防災拠点))</li> <li>◆田川市立地適正化計画に掲げる市の中心拠点の一翼として有効な活用をするため、利用者動向を把握する。</li> </ul>	<p>方針に合致する主要な事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●高質空間形成施設《基幹》- 田川伊田駅前広場シェルター設置事業</li> <li>●地域生活基盤施設《基幹》- 田川伊田駅駐輪場増設事業 田川伊田駅前観光案内版設置事業 田川伊田駅ポケットパーク整備事業</li> <li>●道路《基幹》- 田川伊田駅前広場(道路)整備事業 市道日の出町7号線改良事業</li> <li>●事業活用調査《提案》- 都市再生整備計画事業効果分析調査</li> </ul>
<p><b>その他</b></p> <p>【まちづくりの住民参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅周辺住民、地元事業者等が参加したワークショップを平成24年より4回開催。その中で、整備コンセプト等を協議し都市再生整備計画(計画期間:平成26年度から令和元年度まで)を策定した。</li> <li>・都市再生整備計画による田川伊田駅周辺地区の整備を有意義なものとするため、駅周辺住民、地元事業者等が参加したまちづくりに関する勉強会を平成26年から10回開催し田川伊田駅周辺の活性化を議論しハード、ソフト両面から事業案をまとめた。このまとめが、田川伊田駅周辺地区の整備及び活用の課題整理となった。</li> <li>・本市では、「市民とともに歩むまちをつくる」を政策として掲げ、具体的施策として5,000人ボランティア組織体制の確立を目指したボランティアセンターを開設し約7,600人(H31.3)が登録している。</li> <li>・このような住民機運が、田川市全体のまちづくりの議論に発展し、現在新たなワークショップが開催されている。</li> <li>・また、地区内を流れる彦山川は、川渡り神幸祭の舞台であり、石炭産業の創成期には「川ひらた」と呼ばれる小型運搬船が行き交うなど、地区の発展と切り離せない。このようなことから「まちづくり」と彦山川の「かわづくり」が一体となった「田川の宝！彦山川を創る会」が立ち上がり、「かわまちづくり計画」の登録(国土交通省水管理・国土保全局)に至り官民連携の取り組みが行われている。</li> </ul>	